

臨床実習

概要

【概要】

臨床実習では、臨床基礎実習で修得した基本的診療についての知識、技術、態度を基盤として、それらの医療行為を患者に実践する。

【学習目標】

臨床基礎実習で修得した基本的診療についての知識、技術、態度を基盤として、各科ごとの医療行為を実践するための知識、技術、態度を修得する。

【評価方法】

診療参加型臨床実習では外来での実習を行う度に電子ポートフォリオを作成し、診療の振り返りとコアカリキュラムに記載されたG領域ならびに水準1・2の項目について自己評価を行い、指導に送信する。電子ポートフォリオは指導医によって評価・添削され、指導医に完了を認められるまで修正を繰り返す。完了となったポートフォリオは印刷する。ポートフォリオは指導医によって承認され、臨床実習のケースとしてカウントされる。臨床推論の実習を遠隔で行う。

各分野で設定されているミニマムリクワイアメントの修了、課題の完了、臨床実習後能力試験の合格を最低限合格ラインとし、ケース数、課題等の総合評価とする。

【備考】

教科書：4年次までに使用した教科書、資料すべて

【学習の準備】

臨床基礎実習の内容について十分に復習する。（60分）

診療予定内容について十分に復習する。（60分）

各分野における【学習の準備】を実施する。（60分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を、臨床実習を通じて修得する（専門的实践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を、臨床実習を通じて身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を、臨床実習を通じて身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を臨床実習を通じて実践する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を臨床実習を通じて身につける（社会的貢献）。

【実務経験】

薬剤実習：薬剤師

診療参加型臨床実習：歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、看護師、介護福祉士

【実務経験を活かした教育内容】

大学病院、歯科クリニックでの実務経験を活かし、歯科保健・医療・福祉等の分野で、高度に専門化した歯科医療の実践するための教育を行う。